

7 保健体育

(1) 第1学年

① 分析と生徒の状況

ア 分析

1年生の学習状況について、定期考査や授業評価アンケート等から以下の特徴が見られた。

- ・ 授業アンケートの結果から、教科に対して興味・関心があると肯定的な回答をした生徒が86%であった。全体的に体を動かすことに前向きに取り組むことができている。
- ・ 集合時間を守り、ラジオ体操や集団行動に真剣に取り組むことができる。
- ・ 授業では動きのポイントを意識して取り組む姿が見受けられる。
- ・ 体格差があり、体力の個人差も大きい。

イ 学力や体力の状況

上記を踏まえ、1年生の学力や体力について、以下のような傾向が見られた。

- ・ 授業に積極的かつ前向きに取り組んでいるが、全体的な体力・運動能力はやや低い傾向にある。
- ・ 小学校段階での運動経験の差によって、体力差がかなりある。
- ・ 新体力テストの結果から、特に筋力・筋持久力と全身持久力に課題がある。

② 本校の課題

ア 学習面（生徒の課題）

- ・ 話をよく聞き、ねらいを理解して、授業に取り組むことが課題である。
- ・ 手本となる動きを注意深く観察して、同じように運動を行うことが課題である。

イ 指導面（教師の課題）

- ・ 学習のねらいが理解できるような発問や板書を行う。
- ・ 運動の良い手本と悪い手本を見せて説明を行う。また、手本の動きを動画で見せる。
- ・ 活動中も生徒の実態に合わせてながら、技能のポイントについて声掛けをする。
- ・ 運動量と活動時間を確保する。
- ・ 補強運動で筋力や全身持久力がつくような運動を取り入れる。

③ 授業改善案

ア 言語活動の取組

- ・ 発問や質問の時間を取り入れる。
- ・ 学習カードに、振り返りや課題・改善策を記入させる。
- ・ ペア学習やグループ学習を積極的に取り入れ、互いにコミュニケーションを取りながら活動できるようにしていく。

イ 特別支援教育の視点を取り入れた授業への取組

- ・ 流れや技能のポイントを視覚的に捉えられるようにする。

ウ 家庭学習の定着

- ・ 毎日、ストレッチや筋肉トレーニングを行う。

エ その他（ICT機器の活用等を含む）

- ・ 技能の動きの手本を映像で見せて、イメージしやすくする。
- ・ お互いの動きを撮影し自分自身の動きを見て、課題や改善策を見付けられるようにする。

(2) 第2学年

① 分析と生徒の状況

ア 分析

2年生の学習状況について、定期考査や実技テスト、授業評価アンケート等から以下の特徴が見られた。

- ・ 授業アンケートの結果から、教科に対して興味・関心があると肯定的な回答をした生徒が85%であった。全体的に体を動かすことに前向きに取り組むことができている。
- ・ 集合、整列を素早く行うためにリーダーが声掛けを行うことができる。
- ・ 集合時間を守り、ラジオ体操や集団行動に真剣に取り組むことができる。
- ・ 授業では動きのポイントを意識して取り組む姿が見受けられる。
- ・ 体格差があり、体力の個人差も大きい。

イ 学力や体力の状況

上記を踏まえ、2年生の学力や体力について、以下のような傾向が見られた。

- ・ 授業に積極的かつ前向きに取り組んでいるが、全体的な体力・運動能力はやや低い傾向にある。
- ・ 学校外で運動をする生徒や運動部活動に熱心に取り組む生徒と普段あまり運動をしない生徒で体力差がある。
- ・ 新体力テストの結果から、特に投能力と持久力に課題がある。

② 本校の課題

ア 学習面（生徒の課題）

- ・ 生徒各自が主体的に集合・整列することが課題である。
- ・ 話をよく聞き、ねらいを理解して、授業に取り組むことが課題である。
- ・ 手本となる動きを注意深く観察して、同じように運動を行うことが課題である。

イ 指導面（教師の課題）

- ・ 学習のねらいが理解できるような発問や板書が課題である。
- ・ 運動時に的確なアドバイスをすることが課題である。
- ・ 運動の良い手本と悪い手本を見せて説明することが課題である。

③ 授業改善案

ア 言語活動の取組

- ・ 発問や質問の時間を取り入れる。
- ・ 学習カードに、振り返りや課題・改善策を記入させる。
- ・ ペア学習やグループ学習を積極的に取り入れ、互いにコミュニケーションを取りながら活動できるようにしていく。

イ 特別支援教育の視点を取り入れた授業への取組

- ・ 授業開始時に内容やねらいを説明し、授業の見通しを示す。今後にも必要に応じてホワイトボード等にポイントを分かりやすく記載する。

ウ 家庭学習の定着

- ・ 毎日、ストレッチや筋力トレーニングを行う。

エ その他（ICT機器の活用等を含む）

- ・ 保健や体育理論の学習でパワーポイントを使用し、板書がどこからでも見やすいようにする。
- ・ 技能の動きの手本を映像で見せて、イメージしやすくする。
- ・ お互いの動きを撮影し自分自身の動きを見て、課題や改善策を見付けられるようにする。

(3) 第3学年

① 分析と生徒の状況

ア 分析

3年生の学習状況について、定期考査や実技テスト、授業評価アンケート等から以下の特徴が見られた。

- ・ 授業アンケートの結果から、教科に対して興味・関心があると肯定的な回答をした生徒が92%であった。全体的に授業に前向きに取り組むことができている。
- ・ 実技テストでは、3年間の積み重ねもあり、それぞれの種目で力がついてきている様子が見られる。
- ・ 定期考査の結果から、授業内容を理解してテストに向けてしっかりと準備することができている。

イ 学力や体力の状況

上記を踏まえ、3年生の学力や体力について、以下のような傾向が見られた。

- ・ 授業に積極的に取り組む生徒が多く、授業開始時の集合や整列も早い。
- ・ 運動が苦手でも、挑戦する気持ちを大切に活動することができている。
- ・ 日頃から運動に親しんでいる生徒と、普段あまり運動をしない生徒で体力差が大きい。
- ・ 身体が硬い生徒が多く、柔軟性に欠けるため、体力面や怪我の予防等に心配がある。
- ・ 新体力テストの結果から、筋力・筋持久力と全身持久力に課題がある。

② 本校の課題

ア 学習面（生徒の課題）

- ・ 知識と技能を活用し、自分なりの考えをもって、運動に取り組む。
- ・ 安心して発言、活動ができる集団づくり。

イ 指導面（教師の課題）

- ・ 心理的安全性の確保。
- ・ 保健の授業における、主体的対話的な学びができるような授業の工夫。
- ・ 活動時間・運動量の確保。新体力テストの結果を受けての効果的な補強運動の取り組み。
- ・ 学習者用端末の効果的な活用。

③ 授業改善案

ア 言語活動の取組

- ・ 動きのポイントを確認する際に、生徒から発言させる。
- ・ 学習カードに、振り返りや課題・改善策を記入させる。
- ・ ペア学習やグループ学習を積極的に取り入れ、互いにコミュニケーションを取りながら活動できるようにしていく。また、前向きな声掛けを意識させる。

イ 特別支援教育の視点を取り入れた授業への取組

- ・ 授業開始時に内容やねらいを説明し、授業の見通しを示す。必要に応じてホワイトボード等にポイントを分かりやすく記載する。

ウ 家庭学習の定着

- ・ 毎日、ストレッチや筋力トレーニングを行う。

エ その他（ICT機器の活用等を含む）

- ・ 技能の動きの手本を映像で見せて、イメージしやすくする。
- ・ お互いの動きを撮影し自分自身の動きを見て、課題や改善策を見付けられるようにする。